

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE さいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEE さいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)埼玉県理容美容専門学校新校舎建設計画	階数	地下1F、地上5F
建設地	さいたま市浦和区常盤町5-89-1,3 91-1,2	構造	S造 一部RC造
用途地域	第一種住居地域、商業地域、準防火地域	平均居住人員	365 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,968 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年10月 予定	評価の実施日	2020年9月8日
敷地面積	1,046 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社熊谷組一級建築士事務所
建築面積	862 m <sup>2</sup>	確認日	2020年9月8日
延床面積	3,535 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社熊谷組一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア= 3.2	Q2のスコア= 2.9	Q3のスコア= 3.1
音環境: 2.8, 温熱環境: 3.1, 光・視環境: 3.6, 空気質環境: 3.6	機能性: 2.5, 耐用性: 2.9, 対応性: 3.4	生物環境: 3.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 3.6

**LR のスコア = 3.3**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.4	LR2のスコア= 3.3	LR3のスコア= 3.2
建物外皮: 5.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 3.3, 効率的: 2.5	水資源: 2.2, 非再生材料の使用削減: 3.7, 汚染物質回避: 3.3	地球温暖化への配慮: 3.6, 地域環境への配慮: 3.0, 周辺環境への配慮: 3.0

### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 外壁はアースカラーを主体とし、街の景観を損ねないように配慮し、東面には壁面緑化を設けることで地域の自然環境に配慮した外観としている。建物は良好な室内環境と長寿命化に配慮し、省エネ性の高い建物としている。	<b>その他</b> -	
<b>Q1 室内環境</b> F☆☆☆☆建材を全面的に使用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> テラスを設け豊かな中間領域を形成することにより快適性の向上に配慮している。また外灯を設置し防犯性に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> O Aフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 雨水貯留槽を設置し、雨水排水負荷低減に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)埼玉県理容美容専門学校新校舎建設計画**

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.8</b>	0.15			<b>2.8</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40			
1.2 遮音						<b>2.5</b>	0.40			
1 開口部遮音性能						3.0	0.30			
2 界壁遮音性能						2.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		教室) Lr値=55				4.0	0.20			
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.1</b>	0.35			<b>3.1</b>
2.1 室温制御						<b>4.0</b>	0.50			
1 室温		教室) 冬期22℃、夏期26℃				4.0	0.60			
2 外皮性能		窓Sc=0.43、U=3.29、外壁U=1.00、屋根U=0.59、外床U=0.84				4.0	0.40			
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.5</b>	0.25			<b>3.5</b>
3.1 屋光利用						<b>4.2</b>	0.30			
1 屋光率		2.5% ≤ [屋光率]				5.0	0.60			
2 方位別開口										
3 屋光利用設備						3.0	0.40			
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.30			
1 屋光制御						3.0	1.00			
3.3 照度		教室) 500lx				<b>4.0</b>	0.15			
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.6</b>	0.25			<b>3.6</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用				4.0	1.00			
4.2 換気						<b>2.6</b>	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能		教室) 1/30以上				4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33			
4.3 運用管理						<b>4.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50			
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.5</b>	0.40			<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>1.0</b>	0.40			
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画						1.0	1.00			
1.2 心理性・快適性						<b>3.0</b>	0.30			
1 広さ感・景観						2.0	0.50			
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画		機能が明確であり、事前に検証を行っている				4.0	0.50			
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		トイレは清掃しやすい内装材、外部の鉄部に亜鉛メッキ処理等				4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		建物の維持管理に適切な設備を設置している				4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.9</b>	0.30			<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.1</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:塩ビシート20年、壁:塗装15年、天井:ボード30年				4.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20			
2.4 信頼性						<b>2.8</b>	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA				4.0	0.20			
5 通信・情報設備						2.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均階高:3.7m以上3.9m未満	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≤[壁長さ比率]<0.3	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック・PF管配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	PF管配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	テラスによる中間領域の形成、外灯による防犯性の配慮等	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI <sub>m</sub> =0.68	<b>5.0</b>	0.20	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	0.10	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.77	<b>3.3</b>	0.50	-	<b>3.3</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>2.5</b>	0.20	-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価				<b>2.5</b>	1.00	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			5.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			5.0	0.20	-	-	
断熱材:ピット内、ボード:天井、ビニル系床材:床							
内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用							
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつGWP=50未満の断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			消費エネルギー量削減により運用時のLCCO <sub>2</sub> 排出量低減に配慮	<b>3.6</b>	0.33	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水貯留槽を設置	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	